

祖母の少女心

B組 吳宣儀

私は子供のとき、よく祖母の部屋の入り口で祖母の振舞いを見たりしました。祖母は毎朝鏡台の前に座って、ワインボトルのようなダークグリーン色の瓶から香りがする水を手にとり、そして両手を揉んで、その水を髪の毛にも首にもろり、とぬり、ました。いつも祖母は言葉に表わせない香りがしてました。

香りというけれど、実は私はあの香りが苦手でした。あの香りを嗅いだら目眩いがかして頭がくらくらします。大人になっても、あの香りの正体は「明星花露水」だ、たということが分かりました。「明星花露水」は祖母の一生のさまざまな思い出とともにあります。祖母だけでなく、この「明星花露水」の香りには、台湾のたくさんのおばあさんの思い出がつまっています。

1950～1960年代頃、多くの家庭はまだ貧しか、たです。しかし、政府は台湾の

国民に交にもしてくおませんでした。そのた
め、社会物資が足りませんでした。それでも、
女性たちにと、て美しく装うのは大切なこと
でした。あの時代から「東方シャネル」とい
おれた「明星花露水」はありました。その頃
の若い女性は必ず一本は持っていたそうです。
彼女たちはハンカチに「明星花露水」を少し
つけていました。そして、女性としての魅力
と自信に満ち溢れていました。
また、昔の花嫁達にと、て結婚の日に「明
星花露水」はなくてはならない香りでした。
「明星花露水」がなければ、その婚礼は完全
じゃないぐらいの必要でした。あの頃「明星花
露水」は香水の代名詞だ、たのです。それは
台湾のよばあさんの共通の思い出です。よば
あさんたちが少女から母親にな、て、更に祖
母になる五十年以上の時間が経、ても、「明
星花露水」は包装だけでなく成分も変わら
せん。そして、今でもよばあさんたちは「明星
花露水」を使っ、ています。変わらな成分は

彼女たちの少女心が変わらないうことを象徴して
います。

私の祖母も「明星花露水」の愛用者です。
子供の私はまだ「明星花露水」の意義を知ら
なくて、おばあさん専用のにおいだとしか思
っていませんでした。祖母は若い時に友だち
に騙されて鼻がピカピカになるよく分からな
い薬を買ってしまいました。そのため、祖母
はどんなにおいも嗅げなくなってしまうし
た。だから、祖母がどうして「明星花露水」
をつけるのが、私は不思議に思っていました。
そこで、祖母にどうしてなのかたずねまし
た。すると、「蚊を追いかうためにつけているの
よ。」と、祖母は言いながら少し恥かしそうな
顔をしました。その時気がつきました。祖母
と呼ばれているけれど、まだ心は女の子なの
です。それからは、鏡台の前にいる祖母の姿
を美しいなあと思うようになりました。

祖母は年をとるとともに「明星花露水」の
香りが薄くなりました。今は「明星花露水」

のかわりにサロニパスのにおいがしてります。
以前綺麗になりたいと願った祖母は今病気で
弱々しい祖母になってしまいました。祖母の
ことを考えると「明星花露水」のにおいを嗅
ぎたくなってしまう。少女心の祖母に会いた
いです。